

日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red

Cross Kyushu International College of

Nursing

思春期早期での性行為経験と関係するデートDVの要因

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本思春期学会 公開日: 2022-06-20 キーワード (Ja): 思春期早期, 性行為, デートDV, ドメスティックバイオレンス キーワード (En): early adolescence, sexual intercourse, dating domestic violence 作成者: 永松, 美雪, 原, 健一 メールアドレス: 所属:
URL	https://jrckicn.repo.nii.ac.jp/records/829

原 著

思春期早期での性行為経験と関係する デートDVの要因

Sexual intercourse experience in early adolescence and how it relates to dating domestic violence as an influential factor

永松美雪¹⁾ 原 健一²⁾

1) 佐賀大学医学部 看護学科母子看護学, 2) 佐賀県DV総合対策センター

1) Miyuki NAGAMATSU : Department of Maternal and Child Nursing, Faculty of Medicine, Saga University,
2) Kenichi HARA : Saga Prefectural Center for General Countermeasures Against Domestic Violence

抄 録 : 思春期早期での性行為経験と関係するデートDVの要因を明らかにすることを研究目的とした。対象は2011年6月から2012年9月までの15か月間に、研究に参加した17中学校の13歳から15歳の3,287人の生徒で、合計2,999人(91.2%)の回答を得た。そのうち、性行為経験者は97人(3.2%)であった。性行為経験者と未経験者で、デートDVの知識、デートDVの認識、セルフ・エスティーム、男女関係の意識、性行為に対する態度について比較した。

その結果、男女共に、性行為の未経験者は、経験者よりデートDVの知識得点が高く、性行為に対する否定的態度の得点が高いことを示した。また、女子の未経験者は、経験者よりデートDVの認識得点が高く、セルフ・エスティームが高いことが認められた。

Synopsis : The purpose of this study was to examine sexual intercourse experience in early adolescence and how it related to dating domestic violence as an influential factor. An anonymous questionnaire survey was conducted from May, 2011 to September, 2012 for a period of 15 months, the questionnaire being sent to 3,287 students aged 13 to 15 attending 17 junior high schools. A total of 2,999 students or 91.2% of the subjects agreed to participate in this study. The findings showed that 97 students or 3.2% had experienced sexual intercourse. Comparative analysis was made between the students with sexual intercourse experience and those without the experience in regard to the following items: knowledge of dating domestic violence, awareness of signs of dating domestic violence, self-esteem, awareness of dating relationship, and attitude toward sexual intercourse. In terms of knowledge of dating domestic violence and conservative attitude toward sexual intercourse both female and male students without sexual experience showed higher scores than those experiencing sexual intercourse. In terms of awareness of signs of dating domestic violence and self-esteem the score was higher for female students without sexual experience than corresponding females experiencing sexual intercourse.

Key words : early adolescence, sexual intercourse, dating domestic violence.

I. 緒 言

平成25年の日本性教育協会による10代の性交経験率の調査結果は、中学生で男子3.8%、女子4.8%から、高校生で男子15.0%、女子23.6%、大学生で男子54.4%、女子46.8%と年齢とともに高くなっている¹⁾。思春期は、いろいろな環境の影

響を受けながら発達し、性行為、暴力、アルコール、タバコ、精神的不適応・自殺、反社会的行動などにより、さまざまな健康問題を生じる可能性にさらされている²⁾。特に、思春期早期での性行為開始は、望まない妊娠などの危険に至る可能性が高くなる³⁾。また、近年、男女間の暴力(以下DV: domestic violence)は、配偶者からの暴力

に限らず、結婚前の男女交際中に起こった暴力（以下デートDV：dating domestic violence）と表現され、思春期での暴力の問題が取り上げられてきている^{4, 5)}。

海外では、思春期の対象に、デートDVに関する調査が行われ、被害者や加害者として思春期の男女がデートDVに巻き込まれていることが明らかとなり、被害者となり得る危険性は、男子より女子の方が高いと報告されている⁶⁾。わが国の内閣府の一般成人を対象にした男女間暴力の調査によると、交際相手からの暴力を経験した女性は13.6%、男性は4.3%と報告され、男性より女性が暴力の被害を受けていることが明らかとなった⁷⁾。大学生男女の研究において、デートバイオレンスの認識のうち性的暴力については、男子より女子が高いことが報告された⁸⁾。中学生男女の研究においては、男女交際中の暴力の認識のうち性的暴力は性差を認めなかったが、身体的暴力や精神的暴力の内容によって認識に性差を認めた^{9, 10)}。これらの研究から、DVが起きる背景として、男女のDVに対する認識についての関連が研究されているが、年齢や性差で異なる結果を示している。また、女子大学生・高校生を対象としたNPO法人DVながさきの調査によると、女子大学生の14%、女子高校生の10%が被害の経験があり、そのうち30%は、男性から性的なことを強制されたことがあると報告されている¹¹⁾。思春期早期に性行為経験があることは、同意のない性的暴力を受けている可能性が高いと推測される。しかし、日本では思春期早期での性行為経験とデートDVの関係について十分に検討されていない。

近年、海外で報告された「Adolescent Dating Violence」の文献レビューにおいて、危険要因として計53要因が報告された¹²⁾。しかし、予防要因としては、知識、教育の適応時期、言語理解・IQ、共感性など個人の4要因と、愛情深い学校と良好な母子関係など関係性の2要因が報告されているだけである¹²⁾。これまで、セルフ・エスティームが高く自己主張ができる大学生ほど、慎重な性行為に対する態度をもち、暴力を受けることが少ない傾向にあるという報告がある¹³⁾。また、DVの

研究から、不均等な男女関係がDVを起こす背景にあることから¹⁴⁻¹⁶⁾、お互いを尊重する男女関係が予防要因として推測されている。しかし、これらは思春期早期においては、十分に検討されていない。以上により、著者らは、性的暴力を経験している可能性が高い13歳～15歳の性行為経験は、デートDVの知識、デートDVの認識、セルフ・エスティーム、男女関係の意識、性行為に対する態度が関係していると仮説を立てた。本研究では、思春期早期での性行為経験と関係するデートDVの要因を明らかにすることを研究目的とした。

II. 方法

1. 研究期間・対象

調査期間は2011年6月から2012年9月までである。対象は、佐賀県予防教育事業（性行動に伴う危険を予防する中学生向けプログラム）に参加した中学校のうち学校長の研究承認が得られた17中学校に在籍するデートDVに関する授業を受けていない13歳から15歳までの生徒3,287人であった。

2. 研究方法

1) 調査方法

調査方法として、研究者は、教育前に学校の教師に説明書、調査票および同意書を配布した。説明書には、調査票の配布方法や、回収方法を記載した。調査は守秘義務を重視し、生徒が記入する際、担任は廊下で待機し、性行為経験に関する質問項目は調査票の最後に配置し、記入後直ぐに、各自で小封筒に密封させ、クラス毎に回収した。生徒の説明書には、研究の目的として、データの守秘性、調査の参加を拒否できること、著者らの連絡先を詳細に記載した。さらに、わからない質問や答えたくない質問は記入しなくて良いこと、記入後に提出したくない場合は提出しなくて良いことを記載した。

調査後、参加した全中学校へ学年毎に調査結果を報告し、教育プログラム案を提示し、デートDVに関する教育を実施した。また、教育中に生徒や教員へ性暴力に対する相談・対応を呼びかけ、相談や連絡があった生徒に対して佐賀県DV

総合対策センターと性暴力救援センター・さが(さがmirai)と連携して対応した。本研究計画は、佐賀大学医学部倫理委員会に提出し研究承認を得て実施した。

2) 調査内容

- (1) 性行為経験の有無
- (2) デートDVの知識

デートDV理解については山口のり子のデートDV防止プログラム実施者向けワークブックの意識調査テスト「デートDV理解度チェック」16項目(高校生が間違った思い込みをしやすい内容)を基に¹⁷⁾、研究者と中学校教諭数名で中学生に適應できるか検討して作成した10項目を平成23年度より調査に加え使用した(α 係数=0.65)。I-T相関分析(Item-Total Correlation Analysis)により心理測定的検証を行った結果、項目得点と尺度得点との相関係数が低い4項目を尺度から除き、6項目を使用して分析を行った(α 係数=0.70)。この質問は、各内容について、「そう思わない」または「そう思うか」のいずれかで答えるもので、質問はすべて誤りのため、「そう思わない」を正解として1点とし、その合計点をデートDV知識得点とした。

(3) デートDVの認識

内閣府による男女間暴力に関する調査の身体的暴力、精神的暴力、性的暴力の内容を基に⁷⁾、著者により80高等学校の19,398人の高校生の調査に使用した質問票を参考に、中学生向けに簡易な10項目の中学生版質問票を作成し、著者らの以前の研究で信頼性が確認されている質問票を使用した(α 係数=0.80)^{9, 10)}。男女交際において相手に対して行われる場合、「暴力にあたる」または「暴力にあたらない」のいずれかで答えるもので、質問はすべて暴力であるため「暴力にあたる」を正解として1点とし、その合計点をデートDV認識度得点とした。

(4) セルフ・エスティーム

全般的セルフ・エスティーム尺度(Rosenberg M. 1965)¹⁶⁾を使用した。その尺度は、10項目から構成される。本尺度の日本語版は星野によって翻訳され(星野1970)¹⁹⁾、日本の中学生・高校生の性

行動に関連する調査において、よく用いられて^{20, 21)}、著者らの以前の研究で信頼性が確認されている質問票を使用した(α 係数=0.78)⁹⁾。質問に対して、1=非常に同意する、2=同意する、3=同意しないと4=まったく同意しない、の4項目より選択させた。10項目の合計点をセルフ・エスティーム得点としている。得点は、10から40までの得点になる。

(5) 男女交際でお互いを尊重する意識

著者らが中学生向けに独自に作成し、以前の研究の使用した簡易な3項目の質問を使用した^{9, 10)}。①男女交際において男女の対等な関係は、どの程度大切であると思いますか?を尋ねた。②男女交際において相手を思いやることは、どの程度大切であると思いますか?を尋ねた。③男女交際において自分を思いやることは、どの程度大切であると思いますか?を尋ねた。これらの質問に対して、1=大切でない、2=あまり大切でない、3=少し大切である、4=大切である、から選択する。お互いを尊重する意識が高くなるほど、点数を高く設定した。

(6) 性行為に対する態度

著者らが中学生向けに独自に作成し、以前の研究の使用した簡易な3項目の質問を使用した^{9, 10)}。①あなたは、あなた自身が中学生の時に、性行為をすることをどう考えていますか?②あなたは、あなた自身が高校生の時に、性行為をすることをどう考えていますか?(1=かまわない 2=少しはかまわない 3=あまりよくない 4=よくない)③あなたは、性行為をすることをさそわれた時、断る自信がありますか?(1=自信がない 2=あまり自信がない 3=少しは自信がある 4=自信がある)3項目の質問は四者択一で答えるもので、思春期の性行為に対して慎重な態度ほど点数を高く設定した。

3) 分析対象と方法

有効回答を得た2,999人(91.2%)のうち、性行為経験者は97人(3.2%)であった。そのうち、学年は中学2年生(13歳または14歳)が41人(42.3%)、中学3年生(14歳または15歳)が56人(57.7%)で、性別は男子が53人(54.6%)で、

表1 思春期早期に性行為経験がある男女のデートDVの要因比較

	男子 (n=53)	女子 (n=44)	性行為経験者の 男女間の比較	
	M (SD)	M (SD)	t	p
デートDVの知識合計, M (SD) 0-6	4.10 (1.62)	4.33 (1.70)	0.63	0.529
デートDVの認識合計, M (SD) 0-10	7.86 (2.39)	6.36 (2.23)	3.15	0.002
セルフ・エスティーム, M (SD) 10-40	26.80 (5.64)	22.60 (5.05)	3.68	0.001
男女関係の意識合計, M (SD) 3-12	10.38 (2.41)	10.56 (2.09)	0.39	0.691
性行為に対する態度合計, M (SD) 3-12	5.54 (2.69)	6.95 (2.30)	2.69	0.008

女子が44人(45.4%)であった(以下:経験者)。統計ソフトを使用し統計学的に分析に必要な対照群として学年と性別の割合を一致させ、無作為に性行為未経験者388人を抽出した。そのうち、中学2年生が164人(42.3%)、中学3年生が224人(57.7%)で、男子212人(54.6%)、女子176人(45.4%)であった(以下:未経験者)。

性行為経験の男女間と男女毎に経験者・未経験者について、デートDVの知識合計得点、デートDVの認識得点、セルフ・エスティーム、男女関係の意識、性行為に対する態度の値をt検定により比較した。また、男女毎に経験者・未経験者について、デートDVの理解とデートDVの認識の各項目の割合を χ^2 検定により比較した。分析は、SPSSバージョン21を使用し、有意水準を $p < 0.05$ とした。

Ⅲ. 結果

1. 性行為経験がある男女のデートDVに関する要因の比較(表1)

デートDVの知識合計得点は、性行為経験がある男女で有意な差を認めなかった。しかし、デートDVの認識得点とセルフ・エスティームは、男子が女子より有意に高いことを示した。男女関係の意識は、男女で有意な差を認めなかった。しかし、性行為に対する否定的態度は、男子が女子より有意に低いことを示した。これらの結果により、要因によって男女差を認めたため、男女毎に性行為経験と各要因の分析結果を以下に示す。

2. 男子における性行為経験者と未経験者のデートDVの要因比較(表2)

1) デートDVの知識

男子のデートDVの知識合計得点は、未経験者が経験者よりも有意に高いことが示された($p=0.015$)。また、各項目において、「DVやデートDVが起きたとしても、きっと1回だけだ」($p=0.004$)、「とても親しくなれば、女子がいやがっても男の子が性行為をしたがるのはしかたない」($p=0.006$)、「女子の方から避妊してなんて言ったら嫌われる」($p=0.037$)について、未経験者は経験者より正しく知っている生徒の割合が有意に多いことが認められた。

2) デートDVの認識

男子のデートDVの認識合計得点は、経験者と未経験者で有意な差を示さなかった。各項目においても有意な差を認めなかった。

3) セルフ・エスティーム

男子のセルフ・エスティーム得点は、経験者と未経験者で有意な差を示さなかった。

4) 男女関係の意識

男子の男女関係の意識合計得点は、経験者と未経験者で有意な差を示さなかった。各項目においても有意な差を認めなかった。

5) 性行為に対する態度

男子の性行為に対する否定的態度の合計得点は、未経験者が経験者より有意に高いことを示した($p < 0.001$)。そのうち、現在における中学生の性行為を拒否する態度得点は、未経験者が経験者より有意に高かった($p < 0.001$)。また、将来の高校生の時に性行為を拒否する態度得点は、未経験者が経験者より有意に高かった($p < 0.001$)。さらに、性行為を誘われた時に断る自信の得点は、未経験者が経験者より有意に高いことが認められた($p < 0.001$)。

表2 思春期早期の男子における性行為経験者と未経験者のデートDVの要因比較

	性行為経験者(n=53)	性行為未経験者(n=212)	性行為経験群と未経験群との比較	
	% / M (SD)	% / M (SD)	t / χ^2	p
デートDVの知識合計, M (SD) 0-6	4.10 (1.62)	4.75 (1.40)	2.51	0.015
①DV (デートDV) は大人だけの問題だ (%)	72.5	83.5	3.24	0.07
②デートDVは中学生や高校生には関係ない (%)	78.0	84.4	1.19	0.295
③デートで暴力をふるわれる女子はほとんどいない (%)	56.6	66.0	1.64	0.205
④DVやデートDVがおきたとしても、きっと1回だけだ (%)	74.5	90.5	9.56	0.004
⑤とても親しくなれば、女子がいやがっても男子が性行為をしたがるのはしかたない (%)	54.9	75.0	8.08	0.006
⑥女子の方から避妊してなんて言ったら嫌われる (%)	57.1	73.1	4.79	0.037
デートDVの認識合計, M (SD) 0-10	7.86 (2.39)	8.00 (2.87)	0.51	0.606
①たたいたりして、けがをさせる (%)	92.5	94.3	0.26	0.534
②けがをしない程度に、たたいたり、けったりする (%)	83.0	84.4	0.06	0.834
③突き飛ばしたり、ものを投げつけたりする (%)	92.5	94.3	0.26	0.534
④ものをこわしたり、なぐるふりをする (%)	70.8	83.0	3.25	0.083
⑤大声でどなる (%)	61.3	62.3	0.01	1.000
⑥バカにしたり、心が傷つくようなことを言う (%)	80.8	84.4	0.41	0.532
⑦何を言っても、相手にせず無視する (%)	63.5	77.4	3.63	0.073
⑧監視したり、外出させなかったりして行動の自由を奪う (%)	82.7	84.4	0.09	0.832
⑨他の異性と話をしたり、親しげにしたりすることを怒る (%)	67.5	69.2	0.06	0.870
⑩性行為やキスを断われなくする (%)	81.6	82.7	0.03	1.000
セルフ・エスティーム, M (SD) 10-40	26.80 (5.64)	26.33 (4.84)	0.52	0.606
男女関係の意識合計, M (SD) 3-12	10.38 (2.41)	10.43 (1.76)	0.13	0.898
①男女交際において男女の対等な関係は、どの程度大切であると思いますか M (SD) 1-4	3.52 (0.85)	3.46 (0.73)	0.53	0.630
②男女交際において相手を思いやることは、どの程度大切であると思いますか M (SD) 1-4	3.56 (0.87)	3.67 (0.61)	0.90	0.372
③男女交際において自分を思いやることは、どの程度大切であると思いますか M (SD) 1-4	3.28 (0.86)	3.31 (0.749)	0.21	0.838
性行為に対する態度合計, M (SD) 3-12	5.54 (2.69)	9.18 (2.55)	8.67	< 0.001
①中学生の時に性行為を拒否する態度, M (SD) 1-4	1.76 (1.11)	3.14 (0.97)	8.04	< 0.001
②高校生の時に性行為を拒否する態度, M (SD) 1-4	1.58 (0.99)	2.91 (1.06)	8.37	< 0.001
③性行為を誘われた時にことわる自信, M (SD) 1-4	2.27 (1.22)	3.14 (0.93)	5.65	< 0.001

3. 女子における性行為経験者と未経験者のデートDVの要因比較 (表3)

1) デートDVの知識

女子のデートDVの知識合計得点は、未経験者が経験者よりも有意に高いことが示された ($p=0.009$)。また、各項目において、「デートDVは中学生や高校生には関係ない」 ($p=0.025$) について、未経験者は経験者より正しく知っている生

徒の割合が有意に多いことが認められた。

2) デートDVの認識

女子のデートDV認識合計得点は、未経験者が経験者よりも有意に高いことが示された。また、各項目において、「ものをこわしたり、なぐるふりをする。」 ($p=0.033$)、「大声でどなる」 ($p<0.001$)、「何を言っても、相手にせず無視する」 ($p=0.010$) について、未経験者が経験者より暴力だと認識し

表3 思春期早期の女子における性行為経験者と未経験者のデートDVの要因比較

	性行為経験者(n=44)	性行為未経験者(n=176)	性行為経験者と未経験群との比較	
	% / M (SD)	% / M (SD)	t / χ^2	p
デートDVの知識合計, M (SD) 0-6	4.33 (1.70)	4.94 (1.25)	2.63	0.009
①DV (デートDV) は大人だけの問題だ (%)	79.5	84.1	0.52	0.501
②デートDVは中学生や高校生には関係ない (%)	75.0	89.1	5.94	0.025
③デートで暴力をふるわれる女子はほとんどいない (%)	69.8	75.0	0.49	0.561
④DVやデートDVがおきたとしても、きっと1回だけだ (%)	86.0	94.3	3.44	0.095
⑤とても親しくなれば、女子がいやがっても男子が性行為をしたがるのはしかたない (%)	55.8	71.6	3.98	0.066
⑥女子の方から避妊してなんて言ったら嫌われる (%)	72.1	81.0	1.67	0.210
デートDVの認識合計, M (SD) 0-10	6.36 (2.23)	7.64 (2.26)	3.37	0.001
①たたいたりして、けがをさせる (%)	97.7	94.9	0.61	0.691
②けがをしない程度に、たたいたり、けったりする (%)	70.5	77.8	1.06	0.324
③突き飛ばしたり、ものを投げつけたりする (%)	95.5	97.2	0.33	0.629
④ものをこわしたり、なぐるふりをする (%)	52.3	69.9	4.89	0.033
⑤大声でどなる (%)	31.8	64.2	15.13	<0.001
⑥バカにしたり、心が傷つくようなことを言う (%)	70.5	79.0	1.45	0.233
⑦何を言っても、相手にせず無視する (%)	43.2	65.1	7.11	0.010
⑧監視したり、外出させなかったりして行動の自由を奪う (%)	81.8	84.1	0.13	0.820
⑨他の異性と話をしたり、親しげにしたりすることを怒る (%)	35.7	51.7	3.47	0.085
⑩性行為やキスを断われなくする (%)	65.9	80.1	3.87	0.062
セルフ・エスティーム, M (SD) 10-40	22.60 (5.05)	24.55 (4.80)	2.28	0.026
男女関係の意識合計, M (SD) 3-12	10.56 (2.09)	10.93 (1.17)	1.54	0.267
①男女交際において男女の対等な関係は、どの程度大切であると思いますか M (SD) 1-4	3.52 (0.76)	3.57 (0.58)	0.34	0.728
②男女交際において相手を思いやることは、どの程度大切であると思いますか M (SD) 1-4	3.73 (0.69)	3.83 (0.40)	1.25	0.210
③男女交際において自分を思いやることは、どの程度大切であると思いますか M (SD) 1-4	3.32 (0.88)	3.54 (0.53)	2.09	0.037
性行為に対する態度合計, M (SD) 3-12	6.95 (2.30)	9.16 (2.18)	5.68	<0.001
①中学生の時に性行為を拒否する態度, M (SD) 1-4	2.36 (1.10)	3.23 (0.87)	5.53	<0.001
②高校生の時に性行為を拒否する態度, M (SD) 1-4	1.95 (1.02)	2.74 (1.02)	4.54	<0.001
③性行為を誘われた時にことわる自信, M (SD) 1-4	2.57 (1.02)	3.21 (0.79)	4.49	<0.001

ている生徒の割合が有意に多いことが認められた。

3) セルフ・エスティーム

女子のセルフ・エスティーム得点は、未経験者が経験者より有意に高いことが示された。

4) 男女関係の意識

女子の男女関係の意識合計得点は、経験者と未経験者で有意な差を示さなかった。しかし、各項目において、「男女交際において自分を思いやる

ことは、どの程度、大切であると思いますか」(p=0.037)については、未経験者が経験者より大切であるという意識が有意に高いことが認められた。

5) 性行為に対する態度

女子の性行為に対する否定的態度の合計得点は、未経験者が経験者より有意に高いことを示した (p<0.001)。そのうち、現在における中学生

の性行為を拒否する態度得点 ($p < 0.001$), と将来の高校生の時に性行為を拒否する態度得点は、未経験者が経験者より有意に高かった ($p < 0.001$)。さらに、性行為を誘われた時に断る自信の得点は、未経験者が経験者より有意に高いことが認められた ($p < 0.001$)。

IV. 考 察

1. デートDVの知識

思春期早期に性行為の未経験者は、経験者よりも、デートDVの知識得点が高いことが明らかとなった。男子では、「DVやデートDVが起きたとしても、きっと1回だけだ」は性行為経験者の方が理解は低く、デートDVが起きやすいことが推測される。また、「とても親しくなれば、女子がいやがっても男子が性行為をしたがるのはしかたない」や「女子の方から避妊してなんて言ったら嫌われる」も、性行為経験者の方が未経験者よりも理解が低かった。海外の研究では、女性に対する性的暴力を支持する態度は、男女の不平等な態度に関係していることが報告されている^{14, 15)}。思春期早期に性行為の経験をした男子は、女子がいやがっても男子が性行為をしたがるのはしかたないと考え、女子が男子に対して従属的であるという意識やイメージをもちやすいと推測される。また、思春期早期に避妊行動ができないまま性行為を開始した男子は、女子の方から避妊してなんて言ったら嫌われるといった性的に女性を束縛したり支配したりする男性優位の関係の方を支持する可能性があると考え、日本では、恋愛関係において、男女間で支配や束縛があるのは当然という偏見や誤解があると報告されているように²⁰⁾、それは伝統的な男女観を支持することになり、男性がリードをして女性がそれに従うという関係性を学んだ結果、男性が暴力の加害者となり、女性が暴力の被害者となるリスクが大きくなると考えられる。また、思春期早期の性行為経験は、自己の行動を正当化するために、デートDVに関する理解が低く、予防意識の低さにつながる可能性があり、その結果、DVの発生リスクが高まることが推測される。

女子においても、性行為未経験者は、経験者よりも、デートDVの知識得点が高いことが明らかとなった。特に、「デートDVは中学生や高校生には関係ない」については、性行為経験者の方が未経験者より理解が低く、当事者意識が不足していることを認めた。この結果より、女子においても、デートDVが中学生や高校生にも関係があるという当事者意識を高める教育が必要であることが示唆される。

2. デートDVの認識

デートDVの認識得点は、性行為経験者のうち男子が女子より高いことを示した。デートDVは、男性よりも女性が被害を受けやすいことが報告されているように⁷⁾、女子の方が暴力の認識が低く、デートDVの被害を受けやすいと言える。また、男子でデートDVの認識は性行為経験者と未経験者で差を認めなかったが、女子では、性行為未経験者は、経験者よりも、デートDVの認識得点が高いことが明らかとなった。さらに、女子は、怪我をするような身体的な暴力は、性行為の経験に関係なく暴力と認識できていたが、「ものをこわしたり、なぐるふりをする」、「大声でどなる」、「何を言っても、相手にせず無視する」などの精神的な暴力が起きても気づきにくいということが示唆される。

3. セルフ・エスティーム

セルフ・エスティームは、性行為経験者のうち男子が女子より高いことを示した。男子でセルフ・エスティームは性行為経験者と未経験者で差を認めなかったが、女子では、性行為未経験者は、経験者よりも、セルフ・エスティームが高いことが明らかとなった。この結果は、中・高校生の性行動とセルフ・エスティームが関連していることを報告した研究¹⁹⁾と一致した。また、中学生を対象としたライフスキルを用いた性教育プログラムの効果が示しているように²⁰⁾、思春期の性行為に伴う危険を減らすためには、知識を提供するだけでなく、セルフ・エスティームを高める教育が必要であると言える。

4. 男女交際の意識

男女共に、男女関係の意識合計得点は、経験者

と未経験者で有意な差を示さなかった。男子では、各項目に有意な差を認めなかったが、女子で「男女交際において自分を思いやること」については、未経験者が経験者より大切であるという意識得点が有意に高いことが認められた。女子の性行為経験者は、セルフ・エスティームが低いために、男女交際においても自分のことを大切にできないことが推測される。

5. 性行為に対する態度

男女共に、未経験者は、経験者と比較して、思春期早期にあたる中学生時の性行為を拒否する態度を持ち、高校時においてもその態度が続くことが認められた。また、性行為を誘われた時に断る自信とも連動し、将来の性行為に対する慎重な態度につながっていることが示唆された。一方、現在、性行為経験のある中学生は、高校でも性行為を容認する態度となり、性行為を誘われた時に断る必要がないと考えているものと推察できる。思春期早期の性行為経験は、現在や将来の性行為を拒否する意識をもつことは難しくなり、安易な性行為につながるリスクが高くなると考えられる。

この研究により、男女共に、性行為未経験者は、経験者よりデートDVの知識得点が高く、性行為に対する否定的態度の得点が高いことを示した。また、女子の未経験者は、経験者よりデートDVの認識得点とセルフ・エスティームが高く、男女交際において自分を大切にしたい意識得点が高いことが認められた。これらにより、デートDV等による性暴力を予防するために、男女交際の開始により性行為が活発となる前の思春期早期に、デートDVに対する知識や認識を身につけると同時に、セルフ・エスティームを高め、対等な男女関係や慎重な性的態度を養う教育が必要であると考えられる。近年、ようやくわが国において、中学生向けのDV予防教育プログラムが実践され、その有益が評価されてきた^{10, 29)}。須賀らは、男女の違いや学年の違い、どのような中学生に、特に有効であるかという新たな視点で、深く分析する必要があると課題を述べている²⁹⁾。今後のプログラムにおいて、性行為を経験する前に、デートDVに対して正しく理解することは、将来のDVを予防し、

平等な男女関係を育むために大切であると考えられる。さらに、対象の年齢や性差を考慮し集団教育を行い、思春期早期に性行為経験がある対象へ個別相談を学校と連携して実施していくことが重要であると考えられる。

この研究の限界は、思春期早期の性行為経験と関係が予測されるデートDVの要因について分析を行ったが、思春期の性役割等の価値観やデートDVおよび性暴力の被害経験等は明らかでない。今後は、対象者を検討し、調査内容をより改善することが必要である。また、日本の全国規模の調査でないため地域性が出ている可能性があり、研究結果を一般化することができない。今後、より広範囲の対象へ調査を拡大することが必要である。

謝 辞

本研究は平成24年の第31回日本思春期学会に発表したものに、追加調査を行い、論文としてまとめたものである。また、本研究に御協力頂いた学校関係者および生徒の皆さん、佐賀県DV総合対策センターと性暴力救援センター・さが（さがmirai）のスタッフの方々に厚くお礼を申し上げます。

文 献

- 1) 財団法人日本性教育協会編集：「若者の性」白書，第7回青少年の性行動全国調査報告，9-24，小学館，東京，2013。
- 2) Fulkerson, J.A., Story, M., Mellin, A., Leffert, N., Neumark-Sztainer, D., French, S.A. : Family dinner meal frequency and adolescent development : relationships with developmental assets and high-risk behaviors. *Journal of Adolescent Health*, 39, 337-345, 2006.
- 3) 母子衛生研究会編集：母子保健の主なる統計，84-93，母子保健事業団発行，東京，2012。
- 4) 松田悠史：デートDV被害者の認識と実態，看護教育，49, 718-722, 2008。
- 5) 富安俊子，鈴井江三子：ドメスティック・バイオレンスとデートDVの相違および支援体制の課題，川崎医療福祉学会誌，18(1), 65-74, 2008。
- 6) Swain, C.R., Ackerman, L.K., Ackerman, M. : The influence of individual characteristics and contra-

- ceptive beliefs on parent-teen sexual communications : a structural model, *Journal of Adolescence Health*, 38(6), 9-18, 2006.
- 7) 内閣府：男女間における暴力に関する調査 <http://www.gender.go.jp/public/index.html>
- 8) 富安俊子, 鈴木江三子：青年期男女におけるデートバイオレンスの認識と性差間の相違, 母性衛生, 51(4), 626-631, 2011.
- 9) 原健一, 永松美雪, 中河亜希, 齋藤ひさ子：中学生男女の親・教員との会話と男女交際及び性感染症に関する知識・意識・行動との関連, 思春期学, 30 (2), 223-234, 2012.
- 10) 永松美雪, 原健一, 中河亜希, 中野理佳：性行動に伴う危険を予防するプログラムの効果：性感染症予防教育に男女がお互いを尊重する関係を育成する教育を組み合わせる, 思春期学, 30 (4), 365-376, 2012.
- 11) 中田慶子：デートDVを知っていますか？若者たちのデートDVと防止教育について, 助産雑誌, 61(1), 54-59, 2007.
- 12) Vagi KJ, Rothman EF, Lutzman NE, Tharp AT, Hall DM, Breiding MJ.: Beyond correlates. Beyond correlates: A review of risk and protective factors for adolescent dating violence perpetration. *Journal of Youth and Adolescence*, 42(4), 633-649, 2013.
- 13) Carr J L, Vandausen K M: Risk factors for male sexual aggression on college campuses. *Journal of Family Violence*, 19, 279-289, 2004
- 14) McHugh, M.C., Frieze, I.H. : The measurement of gender-role attitudes: A review and commentary. *Psychology of Women Quarterly*, 21, 1-16, 1997.
- 15) Brighouse, H., Wright, E.O. : Strong gender egalitarianism. *Politics & Society*, 36, 360-372, 2008.
- 16) 畑下博世, 守田孝恵, 石川由美子: ドメステック・バイオレンスの3つの要因. *保健婦雑誌*, 59 (12), 1154-1158, 2003.
- 17) 山口のり子：デートDV防止プログラム実施者向けワークブック, 12-13, 梨の木舎, 東京, 2005.
- 18) Rosenberg M: *Society and adolescent self-image*. Princeton University. Princeton, New Jersey Publication, 1965.
- 19) 星野命：感情と心理と教育（二）, 児童心理, 24, 1264-1283, 1445-1477, 1970.
- 20) 川畑徹郎, 石川哲也, 勝野真吾, 西岡伸紀, 野津有司, 島井哲志, 春木敏：中・高校生の性行動の実態とその関連要因—セルフ・エスティームを含む心理社会的変数に焦点を当てて—学校保健研究, 49, 335-347, 2007.
- 21) 富岡美佳：中学生を対象としたライフスキルトレーニングを用いた性教育プログラムの効果, 思春期学, 25(4), 436-444, 2007.
- 22) 伊田広行：「デートDV」をシングル単位恋愛論と結びつけて伝える, *Sexuality*, 32, 16-74, 2007.
- 23) 須賀朋子, 森田展彰, 斎藤環：中学生のためのDV予防教育プログラム開発と効果研究, 思春期学, 31(4), 2013.

（ 受付：平成26年4月14日 ）
 （ 受理：平成27年1月30日 ）